

# フィードバック・リテラシーに関する研究動向

## A Review of Research Trends of Feedback Literacy

瀬崎 颯斗\* 渡邊 智也\*\* 小野塚 若菜\*\*

東京大学大学院新領域創成科学研究科\*

ベネッセ教育総合研究所\*\*

※本資料の一部の図版を発表当時の資料から削除して公開しています。

# 目次

---

1. フィードバックに関する研究背景
2. 文献レビューの目的と方法
3. RQ1(定義と構成概念)に関する研究動向
  - 3.1. 理論研究による概念枠組みの提案
  - 3.2. 学生調査によるカテゴリー生成
  - 3.3. 尺度開発研究への発展
  - 3.4. 小括
4. RQ2(介入方法としての学習活動)に関する研究動向
  - 4.1. ピア評価と典型事例の評価
  - 4.2. 系統的レビューによる整理
  - 4.3. 日本における関連研究
5. まとめと今後の課題

# 1. はじめに

---

# 1. 研究背景

## フィードバックとは何か

- 学習のための評価(Assessment for Learning)を実質化させる指導方略としてのフィードバックの必要性 (Black and Williams 1998)
- Hattie and Timperley (2007)

エージェント(例:教師, 仲間, 本, 親, 自分自身, 経験など)により提供される, その人のパフォーマンスや理解に関する情報

- 教育効果の高い学習方略・指導方略である (e.g., Wisniewski et al. 2020)
- 一方で, FB利用には障壁が多い
  - FBの目的やその内容の理解の難しさ, 主体性 (e.g., Winstone et al. 2017b)

# 1. 研究背景

## フィードバック研究のパラダイムシフト(Winston & Carless, 2019)に着目

- これまでの研究パラダイムは、学習者が学習改善のためにフィードバックを理解し、主体的に行動するプロセスを十分に考慮していない
- 高等教育を中心に、学習改善のプロセスにおける学習者の能動的な役割を強調するパラダイムでの研究が進展。

### 伝達中心(transmission-focused) パラダイム

「指導者はいかに効果的にFBを伝えるか？」

指導者はFBを伝える  
学習者はFBを受け取る

### 学習中心(learning-focused) パラダイム

「学習者はいかに上手くFBを活用するか？」

学習者はFBを理解し利用する  
学習者はFBを生み出し他者に提供する

学習者のFB活用プロセスを理解する概念としての  
「フィードバック・リテラシー」への着目

## 2. 研究の目的と方法

---

## 2. 目的と方法

---

### フィードバック・リテラシーの主要研究の文献レビュー

- 海外の高等教育分野で注目されている比較的新しい概念
- 日本で当該研究を進めるための基礎的な検討を行う

#### リサーチ・クエスチョン

1. 学習者のフィードバック・リテラシーの定義と構成概念は、どのように論じられているか
2. 学習者のフィードバック・リテラシーを高めるための介入方法として、どのような学習活動が関連するか

### 3. RQ1(定義と構成概念)に関する 研究動向

---



### 3. 当該分野の研究動向

#### リサーチ・クエスチョン

1. 学習者のフィードバック・リテラシーの定義と構成概念は、どのように論じられているか



#### 研究動向を以下のように整理

- 3.1. 理論的考察により概念枠組みを提案した研究
- 3.2. 学生調査に基づき概念カテゴリーを生成した研究
- 3.3. 尺度開発研究への発展

## 3.1. 理論研究：Sutton(2012)

---

- **Sutton(2012)の概要**

- フィードバック・リテラシー研究の起点となった理論研究

- **FBリテラシーの定義**

- 「フィードバックを読み, 解釈し, 利用する能力」

- **3つの側面**

- **認識論的側面** (Epistemological)

- 学術知識や, それを得ることに関する認識

- **存在論的側面** (Ontological)

- 学問の世界で教育を受ける存在としての自己のアイデンティティの開発

- **実践的側面** (Practical)

- フィードバックに基づいて行動を起こす

## 3.1. 理論研究: Carless and Boud(2018)

### • Carless and Boud(2018)の学術的貢献

- Sutton(2012)の定義を発展させ, より具体的で適用可能性の高い概念枠組みを提案(Gozali et al. 2023)
- 被引用数が1,413件で最も多い(Google Scholar 2023/10/20 時点)

### • フィードバックの定義

学習者が様々な情報源から得た情報を理解し, それを活用して自分の取り組みや学習方略を向上させるプロセス

### • 学習者のFBリテラシー(Student Feedback Literacy)の定義

- 「情報を理解し, 自身の取り組みや学習方略を向上させるために情報を利用する際に必要な理解, 能力, 気質」

## 3.1. 理論研究: Carless and Boud(2018)

---

### • 学習者のFBリテラシーの4つの要素

- ① フィードバックの価値を理解する (Appreciating Feedback)
- ② 判断する (Making Judgments)
- ③ 感情を管理する (Managing Affect)
- ④ 行動を起こす (Taking Action)

図1 学習者のフィードバック・リテラシーの特徴

(出典: Carless and Boud 2018, Figure1)

# 3.1. 理論研究: Carless and Boud(2018)

- (発表者による補足例): 授業の中間レポートに対してFBがなされた

「仮説は適切に提示しているが、論証の～の部分において論拠が明示されていないことで読み手に対する説得力にやや難がある」



フィードバック・リテラシーを発揮するある学生の特徴

## フィードバックの価値を理解する (Appreciating Feedback)

- レポートの改善には自分自身の責任でこのFBを活用することが重要だと理解している。
- 必要に応じて教員や同級生を頼ったり、AIなどの技術を用いることができると認識している。

## 判断する (Making Judgments)

- 論拠の提示に関する基準や解答事例を用いて、レポートの質を自己評価し、改善の必要性を認識する。
- 同級生とレポートの相互フィードバックを行い、期待される基準(「論拠を明示すること」)を理解する。

## 感情を管理する (Managing Affect)

- 批判的なFBコメントがつけられていても、信頼できる教員からのコメントに対応することが自分の学習に資するものであると考え、わきあがる否定的な感情をうまくコントロールする

## 行動を起こす (Taking Action)

- 論証において論拠を明示的に記述するための知識・技能を身につける。
- 期末のレポートでその知識・技能を活かして論証を展開する(FBのループを閉じる)。

## 3.2. 学生調査: Molloy et al. (2020)

---

- **Molloy et al. (2020) の概要**

- FBに対する学生の認識に関する調査データに基づいて、帰納的にFBリテラシーのカテゴリー生成を試みる

- **FBリテラシーの定義**

- 「フィードバック・プロセスを理解し、活用し、そこから恩恵を得る学習者の能力」

- **データ: オーストラリアの2大学が参加した学生調査**

- 4514人の学生を対象とした大規模調査
- 28人の学生を対象とした5回のフォーカスグループ
- 20人の学生を対象としたインタビュー

## 3.2. 学生調査: Molloy et al. (2020)

- **7つのグループで構成される概念枠組みを提案**
  - ① **改善としてのフィードバックに取り組む**
    - 学習の改善を志向するプロセスとしてFBを捉える, など
  - ② **積極的なプロセスとしてのフィードバックの価値を理解する**
    - FBプロセスと, そこでの学習者の役割を理解する, など
  - ③ **学習を改善するために情報を引き出す**
    - 改善に資する情報を要求する, など
  - ④ **フィードバック情報を処理する**
    - 基準や事例に基づき取り組みを評価する, など
  - ⑤ **感情を理解し, 感情とうまく付き合うことができる**
    - FBを求める自発性, 誠実な情報交換, 防御的態度を控える, など
  - ⑥ **互恵的プロセスとしてフィードバックを理解する**
    - 他者との対話的過程と捉え, 有益な情報を提供する, など
  - ⑦ **フィードバック情報の処理の結果を実行に移す**
    - 改善計画・目標を立て, 実行する, など

## 3.3. 尺度開発 : Dawson et al. (2023)

---

- **FBリテラシー行動尺度**

- 学習者の行動特性を測定対象に,  
項目はすべて行動を示す表記

- **5つの次元で構成**

- ① FB情報を求める
- ② 情報を理解する
- ③ FB情報を利用する
- ④ **FB情報を提供する**
- ⑤ 感情を管理する

- **既存の枠組みとの対応付け**

- すべての共著者にDavid Boud氏
- 他者の取り組みにコメントする  
「④FB情報を提供する」を想定

図2 概念的枠組みの構成要素の対応付け

(出典 : Dawson et al. 2023, Figure1)



# 3.3. 尺度開発：主要尺度の一覧

Zhan (2022)・Song(2022)などの認知・感情的側面を含む尺度も存在

表1 尺度開発論文におけるフィードバック・リテラシーの構成要素

文献	尺度が測定する構成要素 <sup>1</sup>
Dawson <i>et al.</i> (2023)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フィードバック情報を求める [Seek feedback information] (様々な情報源からフィードバック情報を引き出す)</li> <li>② 情報を理解する [Make sense of information]</li> <li>③ フィードバック情報を利用する [Use feedback information] (フィードバック情報に基づき行動する)</li> <li>④ フィードバック情報を提供する [Provide feedback information] (他者の取り組みについてコメントする)</li> <li>⑤ 感情を管理する [Manage affect] (ネガティブな感情を経験しても、フィードバックに関する行動を継続する)</li> </ul>
Zhan (2022)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フィードバックを引き出す能力 [Eliciting] (自分の取り組みを改善するための情報を様々な情報源から引き出す)</li> <li>② フィードバックを処理する能力 [Processing] (コメントなどの情報を理解し、その質を判断し、行動のための情報を抽出する)</li> <li>③ フィードバックを実行する能力 [Enacting] (改善の計画を立て、実行する)</li> <li>④ フィードバックの価値の理解 [Appreciation] (改善を志向するプロセスとしてフィードバックの役割を理解する)</li> <li>⑤ 関与への準備 [Readiness] (批判的・否定的コメントも前向きに利用できるよう感情を調整する)</li> <li>⑥ 変化へのコミットメント [Commitment] (継続的な改善行動への努力を示す)</li> </ul>
Song (2022)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① フィードバックの概念 [Conceptions of feedback]               <ul style="list-style-type: none"> <li>1. フィードバックの有用性の認識 [Perceptions of feedback usefulness]</li> <li>2. フィードバックプロセスにおける責任の理解 [Understanding of responsibility in the feedback process]</li> </ul> </li> <li>② フィードバックへの信頼 [Feedback trust]               <ul style="list-style-type: none"> <li>1. ピアのフィードバックへの信頼 [Perceived trust of feedback provided by their peers]</li> <li>2. 教員のフィードバックへの信頼 [Perceived trust of feedback provided by their lecturer]</li> </ul> </li> <li>③ 自己効力感 [Self-efficacy] (フィードバックに基づきうまく行動することができるという認識)</li> </ul>

注)<sup>1</sup> 四角括弧内に、各論文において対応する英語表現を示した。丸括弧内に、必要に応じその要素について本稿著者による補足説明を示した。

## 3.4. 小括

---

### • これまで論じられてきた要素

- FBの引き出し
- FBプロセスの理解とそこでの自らの役割・責任の認識
- FB内容の理解
- FBで伴うさまざまな感情の調整
- FB内容の実行 等

FB活用に至るまでの認知・感情的プロセスに関する考察は、  
FB設計で学習者について考慮すべき特性の検討を促す点で重要

## 4. RQ2(介入方法としての学習活動) に関する研究動向

---

## 4. 介入方法としての学習活動

### リサーチ・クエスチョン

2. 学習者のフィードバック・リテラシーを高めるための介入方法として、どのような学習活動が関連するか

### ※FBリテラシーは育成可能なのか？

- Nieminen and Carless (2023) のレビューで特定された49件中39件の研究では、**FBリテラシーは育成可能なスキルとして扱われている**
- 本発表では、FBリテラシーを授業や研修等を通じて開発が可能な学習者の能力と捉える

## 4.1. ピア評価と典型事例の評価

### • Carless and Boud(2018)の見解

- 学生のFBリテラシーを育成するための学習活動として、ピア評価と典型事例の評価の2つを取り上げる

### ピア評価 (peer feedback / peer review)

- 学習者がフィードバックに対する責任を有しながら、ピアとの対話を行い、ピアの取り組みの質を判断し、ピアのフィードバックから自身の取り組みを改善する機会 (Carless& Boud 2018)

### 典型事例 (exemplars) の評価

- パフォーマンスの「質または能力がどの程度優れているかを定めた水準の典型的なものとなるように選ばれた重要な例」 (Sadler 1987, p.200; 日本語訳は岩田 2023, p.238による)
- 学習者が質の高い取り組みの特徴を理解し、取り組みの質を判断する能力を養うための対話の機会 (Carless& Boud 2018)

## 4.2. 系統的レビューによる整理

- **Little et al.(2023)によるレビュー**
  - 高等教育機関におけるFBリテラシーの実証的な介入研究(2011年～2021年)に関するスコーピング・レビュー
  - 437件の研究をスクリーニングし、最終的に16件を特定
- **具体的な介入方法**
  - 自己評価, ピア評価, フィードバックに関するリフレクション活動, 学習者と教員間でのフィードバックに関する議論と対話, など
  - 多くの研究ではこれら複数の介入方法を組み合わせて実施
- **学習者のフィードバック・リテラシーを評価する方法**
  - 自己報告によるアンケート調査, ピア採点による評価能力の測定, 日誌等によるリフレクションの分析, フォーカスグループやインタビューによる学習者の認識を問う調査, など

## 4.2. 系統的レビューによる整理

---

### • 介入研究における課題

- 介入効果を評価する方法が、アンケートやグループフォーカス等の自己報告による学習者の認識の評価によるものが大半である
- FB後やこれらの介入後の学習者の行動そのものを直接追跡し、評価する必要がある (Winstone et al. 2017a; Little et al. 2023)
- FBに関わる感情的反応の改善や変化に対する効果を、明確に調査した研究はほとんどない (Little et al. 2023)

### • 介入研究で考慮すべき要素 (Little et al. 2023)

- ① 研究が対象としたFBリテラシーの概念を特定すること
- ② FBリテラシーのどの要素を対象にするかを明確にすること
- ③ 評価の際に既存の尺度を用いること

## 4.3. 日本における関連研究

---

- **FBリテラシー向上を目指すカリキュラム** (朝比奈 2021)
  - 医学部での卒前教育におけるFBリテラシー教育プログラム
  - フィードバックの講義と演習を重ねながら、指導医や同僚からのフィードバックを基にしたリフレクションを習慣化するための体験学習が行われた。
- **学習者主体の評価活動** (例: 岩田 2020; 岩田・田口 2023)
  - 学習者のパフォーマンスに対する自己評価能力を高める研究
  - ピア評価や典型事例を活用した評価練習の効果を検証した実証研究が蓄積されている



## 5. まとめと今後の課題

---

## 5. まとめと今後の課題

### 発表概要

- 学習者のFBへの主体的な関与を支えるFBリテラシーに着目
- 定義と構成概念, 育成に資する学習活動の研究動向を概観

### 課題①

- **日本国内の事例に基づく実証的研究の展開が必要**
  - 過去10年程度で理論研究・事例研究を中心に発展したが、**実証的研究は少ない** (Nieminen and Carless 2023; Little et al. 2023)
  - 学習者による評価活動, FBに関するワークショップ等の学習活動に関する研究に, FBリテラシーの概念・文脈を適応することで, **日本の事例から国際的なFB研究の発展に寄与できる可能性あり**

## 5. まとめと今後の課題

### 課題②

- **高等教育に留まらない研究対象の拡張が必要**
  - 研究対象が高等教育に偏る (Gozali et al. 2023; Winstone et al. 2017a)
  - 多くの研究は、『Assessment and Evaluation in Higher Education』誌など高等教育研究の論文誌に掲載(表2, Gozali et al. 2023)
  - 今後は、**初中等教育段階・社会人**へ研究対象を拡張する必要がある

表2 フィードバック・リテラシー研究が掲載される論文誌

順位	論文誌	件数
1	Assessment and Evaluation in Higher Education	47
2	Innovations in Education and Teaching International	5
3	Assessing Writing	3
4	BMC Medical Education	3
5	Medical Teacher	3

(出典: Gozali et al. 2023, Table1を一部抜粋)

## 5. まとめと今後の課題

### 課題③

- **教員のフィードバック・リテラシー (Teacher Feedback Literacy) に関する研究が必要**
  - 「学習者がフィードバックを取り入れること (uptake) を可能にし、学習者のフィードバック・リテラシーの発達を促すように、フィードバック・プロセスをデザインするための知識、専門性、気質」 (Carless and Winstone 2020)
  - FBにおける責任を学習者と教員それぞれで共有し、FBに関わる学習環境を構築する**教員の役割を強調**する概念

学習者と教員はFBのプロセスにおいて異なる役割を有するため、学習者側のみならず、教員側のFBリテラシー研究も重要となる

# 参考文献(1/3)

- 朝比奈真由美 (2021) 10 フィードバック・リテラシーを教育/学習する 10-1 学生に対するフィードバック・リテラシー教育は生涯学習コンピテンシーを達成する有力な方略であるか?. *医学教育*, 52(2) : 151-155
- Black, P., and Wiliam, D.(1998) Assessment and classroom learning. *Assessment in Education: Principles, Policy & Practice*, 5(1) : 7-74
- Boud, D., and Molloy, E.(2013) What is the problem with feedback?. In Boud, D. and Molloy, E.(Eds.) *Feedback in Higher and Professional Education*, pp.1-10, London: Routle
- Carless, D. and David, B.(2018) The development of student feedback literacy: Enabling uptake of feedback. *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 43(8) : 1315-1325
- Carless, D., and Winstone, N. E. (2020) Teacher feedback literacy and its interplay with student feedback literacy. *Teaching in Higher Education*, 28(1) : 150-163
- Dawson, P., Yan, Z., Lipnevich, A., Tai, J., Boud, D., and Mahoney, P.(2023) Measuring what learners do in feedback: the feedback literacy behaviour scale. *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 1-15, DOI: 10.1080/02602938.2023.2240983
- Gozali, I., Syahid, A., and Suryati, N.(2023) Ten years after Sutton (2012): quo vadis feedback literacy? (a bibliometric study). *Register Journal*, 16(1) : 139-167
- Hattie, J., and Timperley, H.(2007) The power of feedback. *Review of Educational Research*, 77(1) : 81-112

# 参考文献(2/3)

- Han, Y., and Xu, Y. (2021) Student feedback literacy and engagement with feedback: a case study of Chinese undergraduate Students. *Teaching in Higher Education*, 26(2) : 181-196
- 岩田貴帆 (2020) 協議ワークを取り入れたピアレビューによる学生の自己評価力向上の効果検証. 大学教育学会誌, 42(1) : 115-124
- 岩田貴帆 (2023) 学生の自律的なパフォーマンス改善を促す学生主体の評価活動：初学者対象の大学授業にどのように取り入れるか. 京都大学大学院教育学研究科紀要, 69 : 235-248
- 岩田貴帆, 田口真奈 (2023) パフォーマンスの典型事例とルーブリックを教材とする評価練習の学習効果. 日本教育工学会論文誌, 47(1) : 91-103
- Little, T., Dawson, P., Boud, D., and Tai, J.(2023) Can students' feedback literacy be improved? A scoping review of interventions. *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 1-14, DOI: 10.1080/02602938.2023.2177613
- Molloy, E., David, B., and Henderson, M.(2020) Developing a learning-centred framework for feedback literacy. *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 45(4) : 527-540
- Nieminen, J. H., and Carless, D.(2023) Feedback literacy: A critical review of an emerging concept. *Higher Education*, 85(6) : 1381-1400
- Sadler, D. R. (1987) Specifying and promulgating achievement standards. *Oxford review of education*, 13(2) : 191-209

# 参考文献(3/3)

- Song, B. K.(2022) Bifactor modelling of the psychological constructs of learner feedback literacy: Conceptions of feedback, feedback trust and self-efficacy. *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 47(8) : 1444-1457
- Sutton, P.(2012) Conceptualizing feedback literacy: Knowing, being, and acting. *Innovations in Education and Teaching International*, 49(1) : 31-40
- Winstone, N. E., and Carless, D.(2019) *Designing effective feedback processes in higher education: a learning-focused approach*, Routledge
- Winstone, N. E., Nash, R. A., Parker, M., and Rowntree, J.(2017a) Supporting learners' agentic engagement with feedback: A systematic review and a taxonomy of recipience processes. *Educational Psychologist*, 52(1) : 17-37
- Winstone, N. E., Nash, R. A., Rowntree, J., & Parker, M.(2017b). 'It'd be useful, but I wouldn't use it': barriers to university students' feedback seeking and recipience. *Studies in Higher Education*, 42(11) : 2026-2041
- Wisniewski, B., Zierer, K., and Hattie, J.(2020) The power of feedback revisited: a meta-analysis of educational feedback research. *Frontiers in psychology*, 10 : 3087
- Zhan, Y.(2022) Developing and validating a student feedback literacy scale. *Assessment and Evaluation in Higher Education*, 47(9) : 1087-1100

# 参考：尺度開発：認知・感情的側面を含む尺度

- **Zhan (2022) : the Scale of Student Feedback Literacy**
  - FB利用の**能力的側面**を問う次元
    - ①FBを引き出す能力, ②FBを処理する能力, ③FBを実行する能力
  - 能力的側面を支える**気質的側面**を問う次元
    - ④FBの価値の理解, ⑤関与への準備, ⑥変化へのコミットメント
- **Song (2022) : the Feedback Literacy Scale**
  - 「FBに関わる前の学習者の後天的な社会的認知・感情的能力（行動特性）」とFBリテラシーを定義 (Han and Xu 2021に依拠)
  - **社会的認知・感情的能力**であるFBリテラシーに焦点を当てた尺度
    - ① 社会認知的能力であるフィードバックの概念
    - ② 社会感情的能力であるフィードバックへの信頼
    - ③ FB利用への自己効力感



# 参考：系統的レビューによる整理

## • Winstone et al.(2017a)によるレビュー

- 学習者のFBプロセスへの主体的な関与を支援・促進することを目的とした介入方法に関するシステマティック・レビュー
- 「FBリテラシー」に限定されない多様な学習活動を報告
- 1985年～2014年の研究を対象とし、最終的に195件を特定

## • 4つのカテゴリーに分類・整理

### ① 基準の内面化と適用

- ピア評価, 自己評価, 採点規準の提供, 教員との議論と対話

### ② 継続的なモニタリング

- FBに基づく行動行画, ポートフォリオ

### ③ トレーニングの集団実施

- FBに関するワークショップ・リソースの提供, 典型事例の評価

### ④ フィードバックの提供方法

- 形成的評価・総括的評価後の再提出の機会提供, 個人に合わせたFB, テクノロジーの活用, など